
鶴岡地域まちづくり未来事業

令和4年度事業報告

令和4年度に事業採択された7地区の鶴岡地域まちづくり未来事業の取組みを紹介します。

1. 三瀬地区自治会
2. 田川地区自治振興会
3. 加茂地区自治振興会
4. 小堅地区自治振興会
5. 湯野浜地区自治会
6. 第六学区コミュニティネットワーク
7. 由良自治会

三瀬イズム推進プロジェクト

事業の目的

三瀬地区地域ビジョンの[三瀬イズム～住む楽しむコミュニティ～]としたキャッチフレーズは、三瀬の“らしさ”を表現するとともに、“みんな”“楽しむ”といった住民全員で地域の暮らしを楽しむ事に併せ、且つ、住民の不安の解消に立ち向かうことも意識している。

ビジョンの内容を見える化することで住民と共有を図りながら、ビジョン策定時に掲げた具体的な活動内容を促進し、“地域での暮らしを楽しむこと”“不安の解消に立ち向かうこと”“地域の特性を向上させること”を目的とした。

事業の内容（令和4年度事業）

策定完了した「三瀬地区地域ビジョン」について住民への浸透を図った。ビジョンに基づき、具体的な事業を実施し、ビジョンの浸透、目標達成を図り、住民の不安解消、地域特性の向上を目指した。

・三瀬ファンプロジェクト

自治会10周年誌、30周年誌や三瀬大火など歴史的資料について、データベース化、冊子の若干数の増刷など、50周年に向けた知識財産の蓄えを行った。NTT東日本と連携し、デジタルアーカイブ化を検討した。

・見守り・防災プロジェクト

地区内に防災士を増やす試みを実施した。地域防災計画や個別避難計画の整備協力のため、また役員不在時などのため、地区の防災リーダーを増員することを目的とした。山形大学講師の熊谷誠氏をアドバイザーに迎え、住民向けの指導も並行し、住民の防災意識の底上げを図った。NTT東日本のDXソリューションを活用し、これまでの防災面で活用した未来事業プロジェクトの拡充を図った。

・地域ビジョン推進の指導

鳥取大学の筒井先生に地域づくりの進捗状況を説明し、指導を仰いだ。次年度事業についても指導していただく。

令和3年度実施事業

地域ビジョン浸透事業（役員向け地域ビジョン詳細版の作成）

地域ビジョン遂行事業（地域再発見事業、マイ防災カード設定事業、空き家対策事業など）

事業の成果

三瀬地区の歴史を整理し、アーカイブ化を進める事業にチャレンジした。

三瀬地区の防災に関する各計画の整備を進めるとともに、地区内に防災士の資格取得者を1名増やすことができた。

筒井先生より地域ビジョン推進について具体的に指導していただいた。来年度の取組についても相談ができ、取り組みに繋がった。

令和4年度も新たな取り組みに挑戦し、次年度へ向けたタネがまかれ、芽が見えそうだ。

田川地区自治振興会の取組み

「田川太郎の里づくり」プロジェクト

事業の目的

田川文化発祥の地とされ、地域内に多くの貴重な遺跡や史跡、歴史資料が残されている田川地区において、平安時代に田川地方一帯を治めていた歴史上の人物「田川太郎」を切り口とし、地域住民が一体となって、創造的なまちづくり活動を行っていく。

事業の内容（令和4年度事業）

「田川太郎」を切り口として、七日台周遊路案内板の設置等のハード事業、サイクリングツアーなどのイベント実施等のソフト事業を組み合わせ、地域の活性化及び人材育成を図った。

- ・七日台周遊路整備
- ・「ぶら田川」隊による史跡案内
- ・サイクリングツアー

令和3年度実施事業

歴史資料展示室追加整備（照明設置）

ガイドプレート設置、バス停壁画制作

地区内の史跡案内を整備し、ガイドと共に史跡を巡る「ぶら田川」を開催

事業の成果

令和2年度、3年度に歴史資料展示室、収蔵室、ガイドプレート、散策マップ等が整備されたことで、当地域を訪れる人が増えてきている。また、令和4年5月に初実施した「田川太郎の里歴史ウォーク」イベントには、募集定員の3倍もの応募があり、徐々に事業の効果が出始めてきている。



田川太郎の里 サイクリングツアー



七日台周遊路案内板

加茂ビジョン実施事業

事業の目的

加茂地域ビジョンの5つの柱のうち「加茂の歴史・教育を守り伝えていくための活動」について事業展開する。江戸時代初期から使われていた「加茂古道」は、様々な物資を庄内・内陸各地に運んだ貴重な道であるため、今も当時のまま残る古道に興味をもってもらい、ガイドがいなくても歩ける古道にしたい。

事業の内容（令和4年度事業）

古道口となる稲荷神社には、古道整備に力を入れた鉄門上人の石碑が今も残り、加茂から大山側へと出る古道が今も残っている。加茂側には重要な箇所が10か所ほどあり、どのようにして作られた道なのか、道脇にある石造物は何を意味しているのかの解説看板を設置した。

また、加茂古道全体の略図看板を古道口に設置し、訪れた方が山の中で迷わないように目印（案内）看板を設置した。

令和3年度実施事業

- ・日和山整備・まち歩きガイド養成本作成
- ・大黒舞唄本書見台、唄本整備

事業の成果

入口大看板の設置により、古道入口と古道の全体像がわかりやすくなった。入山前から自分のペースで歩くコースを決めることができるようになった。

10か所にポイントとなる看板が設置され、今も残る石碑や祠のことがわかりやすく解説されており、400年前の甦った古道を体験できるようになった。

地域資源の活用により郷土愛の醸成がはかられ、地域の内外に対する魅力発信に貢献することができた。



加茂古道 案内看板

小堅地区自治振興会の取組み

『小堅ランド』の安全確保と活動の発信

～子ども・若者・子育て世代と先輩方が、世代を越えて対話でき、一緒に取り組む地域活動（DIY）と地区外へのPR発信～

事業の目的

令和3年度にプレオープンした多世代交流施設『小堅ランド』の運営体制強化及び施設設備の安全面強化と改善を目的とする。

『小堅ランド』の取組みは、様々な世代が交流し、声をかけあうことによって小堅地区に暮らす理由を創出することを目的としている。

また、『小堅ランド』を中心に地域の魅力を高め、今住んでいる住民が将来もこの地区に残る理由の創出、さらには他地区の子育て世代が小堅地区に移り住む理由の創出にも繋げたい。

事業の内容（令和4年度事業）

- ・『小堅ランド』における、住民によるDIYイベント的施設改善。団体利用の受け入れ。
- ・『小堅ランド』内の「アクティブルーム」の安全確保（安全ネット、安全マットの設置）。

令和3年度実施事業

- ・移住者用シェアハウスと交流スペースの整備
- ・コミセン2階の交流スペースの整備
- ・地域ビジョン策定完了

事業の成果

新型コロナウイルスの感染拡大に配慮しながら、月1～2回『小堅ランド』をオープンした。SNSや地区広報にて来場者数の増加を図った。イベント等で東北公益文科大学の学生から協力を得ることができた。個人のみならず、小グループでの体験利用の申し込みも多く、関係人口の増加に繋がっている。



作業スペース



アクティブルームの安全確保

湯野浜地区自治会の取組み

湯野浜のみらいに舵をとれプロジェクト～さあ 波に乗ろう！！～

事業の目的

湯野浜地区の魅力を引き出し、住民が心豊かに楽しみながら過ごせる場所の創出。また、イベントでの世代間交流や心の繋がりを得る。伝統芸能披露による次世代への伝承。併せて観光地としての魅力、交流人口の拡大に繋げる。

令和2年度、3年度はこの目的となる土台作りをした。4年度は整備された場所の有効活用を目的とした。

事業の内容（令和4年度事業）

まちの中心地を活用した取組み

- ・渚のステージ：夏祭りの復活。伝統芸能の披露。自治会専門部共同企画事業。外部団体への会場提供。
- ・改札口ひろば：子どもから高齢者まで心休まる憩いの場の環境づくり。小規模イベント会場。

令和3年度実施事業

- ・まちの中心部環境整備（改札口ひろば・でんしゃみち・渚のステージ）
- ・海岸遊歩道美化活動

事業の成果

渚のステージ活用では住民のみならず、各種団体よりイベントで賑わった。また、20年ぶりに夏祭りを開催し、伝統芸能披露により子どもから大人まで楽しむことができた。各旅館にもチラシを配布したところ、観光客の方々からも参加いただき、総勢300名を超えるイベントとなった。盆踊りでは住民が一体となり、目標としていた世代間交流、心の繋がりを得ることができた。

改札口ひろばについては、大人が寛ぐ姿も見られ、子どもたちや観光客から伝言板へたくさんメッセージが残された。



渚のステージ



改札口ひろば

第六学区コミュニティネットワークの取組み

「共生のまち6 楽暮～世代を越えて繋がる居場所づくり～」プロジェクト

事業の目的

少子高齢化は第六学区においても深刻な問題となっており、ひとり暮らしの高齢者も年々増加傾向にあることを踏まえ、いつでもだれでも集える居場所づくりを進めてきた。交流居場所「はろ～くらぶ」における活動の充実を図ることで地域交流が活性化し、世代を越えた繋がりが深化することを目的とする。

事業の内容（令和4年度事業）

- 交流居場所「はろ～くらぶ」における事業の充実
事業講師の確保。季節に応じたイベントの実施など。
- 連携団体とコラボした事業の展開
中・高校生主体の異世代交流事業の推奨。
子どもから高齢者まで、安心・安全に暮らせる地域づくり。

令和3年度実施事業

- 居場所づくり事業
居場所整備、運用規定の設定、活動の住民周知
- 人材育成事業
支え合いボランティアの募集、管理人の確定

事業の成果

- 交流居場所「はろ～くらぶ」における事業の充実
外部指導者を15名依頼し、92回の交流事業を実施。
季節ごとの特別行事を企画実施。普段より多くの参加を得ることができた。
- 連携団体とコラボした事業の展開
スタンプカードを利用し集客の効果が得られた。
フリーWi-Fiを設置し、SNSによる活動の様子の配信することで事業に興味を持つ人が増えた。



絵皿づくり



夏祭り

“ゆら” まるごと「インフルエンサー」

事業の目的

由良地域ビジョン『ゆら“未来予想図”』の実践計画に基づいて、初年度は、“ゆら” まるごと「インフルエンサー」をキャッチコピーに住民の皆が自分ごととしてまちづくりに参画し、由良地域ビジョンの実現を目指すことを目的とする。

事業の内容（令和4年度事業）

- 1 住民全員が「インフルエンサー」
 - ・由良 LINE の開設準備
 - ・若者・子の親世代への働きかけ
 - ・高齢者向け、デジタル機器・SNS 教室の開催
 - ・集いの場の提供（フリースペース）
 - ・美味しい食の提供
- 2 地域全体が「インフルエンサー」
 - ・地域資源の選定
 - ・由良マップの制作検討
 - ・サインとQRコードの設置検討
 - ・環境美化計画「花いっぱい運動」「ごみ拾い活動」
 - ・フリーマーケットの開催計画
- 3 冊子「ゆら“未来予想図”」増刷

事業の成果

“ゆら” まるごと「インフルエンサー」をキャッチコピーに4つのテーマグループ、4チームに分かれて年次計画に基づき実施検討を行った。

- ・SNSグループ：スマホ教室の実施
- ・集い・食グループ
 - ：地元の魚を使った食事の提供。
 - 地域資源の選定検討。
- ・花いっぱい運動、ごみ拾い活動グループ
 - ：来年度に向けた活動内容の検討。
 - 備品の選定、購入。
- ・フリーマーケットチーム
 - ：来年度に向けた活動内容の検討。備品の選定、購入。



由良地区地域ビジョン